

株主のみなさまへのご報告

大和証券グループ 平成15年度事業報告書

1	表紙
2	ごあいさつ
3	委員会等設置会社について
4	連結財務諸表
8	業績概況
10	トピックス
14	社会貢献
16	アンケート集計結果
19	大和証券グループの新パートナー 星野仙一氏
20	株式、株価の状況
22	会社概要、役員、主要国内グループ会社
23	大和証券国内サービス網
24	大和証券グループ本社の株主優待制度

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

大和証券グループは、これまで、財務基盤の強化、事業の効率化、マーケティング体制の充実などの経営改革を進めてきました。こうした結果、平成15年3月期にようやく芽生えた業績回復の兆しを、平成16年3月期において、さらに大きなものにすることができました。投資銀行業務においては、三井住友フィナンシャルグループとの連携効果が如実に現れ、国内最強のインベストメントバンクとしての基盤が固まりつつあります。

しかしながら、この結果について、満足するにはほど遠い水準であると、私たちは考えています。日本経済の再生をより確実なものとするため、資本市場を通じてリスクマネーを最適に配分していく、という使命を担う私たちの役割は、今後ますます大きなものとなっていきます。この社会的責任を果たし、投資家のみなさまのニーズに応えるためには、商品・サービスの品揃えとクオリティをさらに充実させるとともに、これを迅速にお客さまに提供できるように体制を強化することが不可欠となります。

私、鈴木茂晴は、このたび大和証券グループ本社の執行役社長兼CEOに就任いたしました。約7年間にわたり、原前社長が築きあげた経営基盤を土台に、大きく広がりつつあるビジネス・チャンスを着実に捉え、実績を示していくことが、私の責務であると考えています。

事業分野では、本年12月1日からの金融機関による証券仲介業の解禁など、競争の枠組みが大きく変わりつつあるリテール証券事業と、それを商品供給面で支えるアセット・マネジメント事業において、新たなビジネス展開を行なう必要性を、特に感じています。また、国内において確固たる地位を築いたうえで、国際的な業務展開を進めていくことは、ボーダーレス化が進む今日の経済において、大和証券グループのさらなる発展に寄与し、グループブランドを一層強固なものにすると考えます。これらの点については、具体的な戦略・戦術をつめたうえで、なるべく早い機会にご説明させていただく所存です。

景気回復にともないビジネス・チャンスは広がっていますが、それを自らの相対的地位の向上につなげられる企業はひと握りです。チャンスを活かせるだけの「能力」「資格」を、これまで大和証券グループは懸命に整えてきました。私は、それらをさらに強化・充実させるだけでなく、商機を捉えていく「機敏性」と「決断力」も重ねていくことで、大和証券グループの持続的な成長を目指します。

株主のみなさまにおかれましては、これまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成16年6月

株式会社 大和証券グループ本社

執行役社長 兼 CEO

鈴木茂晴

委員会等設置会社について

当社は、平成16年6月23日開催の株主総会において定款変更を行ない、委員会等設置会社へ移行しました。

近年、投資判断においてコーポレート・ガバナンス(企業統治)の在り方が、以前にも増して重視されるようになっていきます。当社グループは、平成11年4月に持株会社体制に移行し、グループ経営を実践する中、透明性・客観性の高いガバナンス体制の構築を目指してきました。今般の委員会等設置会社への移行により、取締役会から執行役への大幅な権限委譲による意思決定の機動性の向上と、社外取締役の増員と指名・監査・報酬の三委員会の設置による取締役会の監督機能の強化が図られるものと考えています。

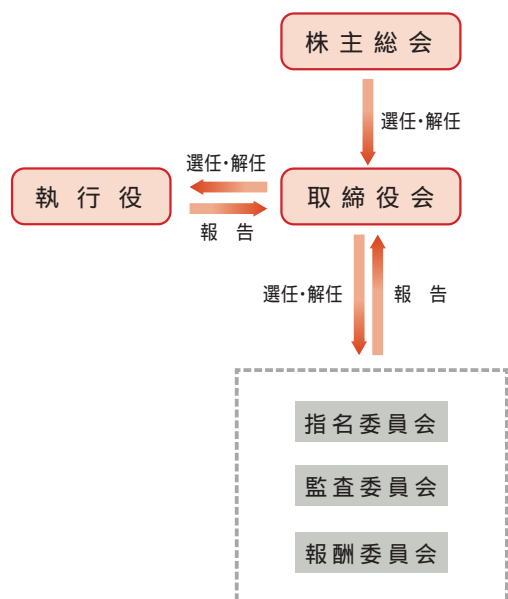
1. 委員会等設置会社について

委員会等設置会社とは、社外取締役が過半数を占める指名委員会、監査委員会及び報酬委員会の三委員会、並びに、会社の業務を執行する執行役を設置することを、商法特例法に基づき定款に定める会社をいいます。委員会等設置会社では監査役を設置せず、監査委員会が取締役及び執行役の職務の執行を監査することになります。

2. 取締役会について

取締役会は、取締役会長を議長とし、13名の取締役全員により構成され、当社の経営の基本方針や執行役の職務の分掌及び指揮命令関係等を決定するとともに、主に三委員会を通じて経営の監督を行ないます。なお、当社では、取締役会の業務監督機能を強化するために、業務執行の決定権限を可能な限り執行役に委任しています。

< 委員会等設置会社制度 >



3. 三委員会について

指名委員会

指名委員会は、主に、株主総会に提出する取締役の選任及び解任に関する議案の内容を決定します。同委員会は取締役会長が委員長を務め、委員5名のうち3名が社外取締役で構成されています。

監査委員会

監査委員会は、取締役及び執行役の職務の執行の監査、株主総会に提出する会計監査人の選任及び解任等に関する議案の内容の決定、執行役の違法行為の差止請求、計算書類の監査、監査報告書の作成などを行ない、必要な場合には内部監査部門等と協働し職務を遂行します。同委員会は、執行役を兼務しない社内取締役が委員長を務め、委員3名のうち2名が社外取締役で構成されています。

報酬委員会

報酬委員会は、取締役及び執行役が受ける個人別の報酬の内容の決定に関する方針と、取締役及び執行役が受ける個人別の報酬の内容を決定します。同委員会は、取締役会長が委員長を務め、委員5名のうち3名が社外取締役で構成されています。

4. 執行役について

執行役は、取締役会からの権限委譲に基づき、単独ないし執行役会にて業務の決定を行ないます。なお、執行役会は、執行役16名全員により構成され、グループ全体に係る事業戦略、グループ横断的な経営課題、財務に係る重要事項などにつき審議・決定します。

< 三委員会の構成 >

指名委員会	
(委員長)	原 良也
	鈴木 茂晴
	川上 哲郎*
	安田 隆二*
	北島 敬介*

監査委員会	
(委員長)	林 部健治
	北島 敬介*
	宇野 紘一*

報酬委員会	
(委員長)	原 良也
	鈴木 茂晴
	川上 哲郎*
	安田 隆二*
	宇野 紘一*

* 社外取締役

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

・トレーディング商品
証券会社が業務を行なうため、自己の計算において保有する有価証券、デリバティブ取引などのことです。前年度からは、主に国債が減少しています。

・営業投資有価証券
エヌ・アイ・エフ ベンチャーズ及び大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツが投資事業目的で取得した有価証券を計上しています。

・有形固定資産(平成15年度)
建物 559億28百万円
土地 700億66百万円
器具備品 171億28百万円

・投資有価証券
長期保有目的の有価証券です。株価上昇により増加する一方で、銀行劣後債の売却などにより、前年度から269億71百万円減少しています。

科 目	平成15年度 16.3.31 現在	平成14年度 15.3.31 現在
(資産の部)		
流動資産	10,210,037	8,863,899
現金・預金	486,932	438,248
預託金	109,940	105,641
受取手形及び売掛金	8,057	6,959
有価証券	38,650	34,893
トレーディング商品	4,031,944	4,529,437
約見返勘定	580,674	-
営業投資有価証券	40,733	45,270
投資損失引当金	5,172	4,894
その他の棚卸資産	816	912
信用取引資産	235,535	106,873
有価証券担保貸付金	4,391,437	3,264,811
立替金	26,481	4,259
短期貸付金	96,780	81,159
未収収益	16,934	15,574
繰延税金資産	15,224	9,145
その他の流動資産	135,420	226,254
貸倒引当金	355	647
固定資産	555,628	638,926
有形固定資産	143,123	162,339
無形固定資産	59,458	53,951
投資その他の資産	353,046	422,634
投資有価証券	187,437	214,409
長期貸付金	12,388	13,605
長期差入保証金	25,522	29,159
繰延税金資産	42,259	67,587
その他の投資等	97,757	116,471
貸倒引当金	12,319	18,598
資産合計	10,765,665	9,502,825

(単位：百万円)

・ 有価証券担保借入金
債券貸借取引にともない貸し付けた有価証券の担保として相手方より受け入れている取引担保金または売現先に係る受渡代金相当額及び受け入れている取引担保金です。

・ 一年以内償還社債
子会社が発行したミディアム・ターム・ノートなどのうち、1年以内に償還期限をむかえるものを計上しています。平成15年8月29日に償還期限をむかえた第11回転換社債362億69百万円などの影響により減少しています。

・ 社債
大和証券グループ本社が発行した普通社債、子会社が発行したミディアム・ターム・ノートなどを計上しています。
大和証券グループ本社による1,200億円の普通社債の発行及び子会社によるミディアム・ターム・ノートの発行により増加しています。

・ 転換社債
第16回債 799億86百万円
(償還期限:平成18年9月29日)

・ その他有価証券評価差額金
投資有価証券に含まれる「その他有価証券」のうち時価のあるものについて、時価と取得原価の差額(税効果考慮後)を計上しています。株式相場の回復にともない、大きく増加しています。

科 目	平成15年度 16.3.31 現在	平成14年度 15.3.31 現在
(負債の部)		
流動負債	9,122,137	8,214,980
支払手形及び買掛金	2,861	2,638
トレーディング商品	2,914,555	1,520,775
約定見返勘定	-	79,625
信用取引負債	93,449	53,158
有価証券担保借入金	4,092,022	4,355,308
預り金	144,580	140,279
受入保証金	49,208	40,172
短期借入金	1,408,775	1,475,900
コマーシャル・ペーパー	273,722	332,800
一年以内償還社債	21,102	46,010
未払法人税等	15,406	2,812
繰延税金負債	190	-
賞与引当金	19,375	12,053
その他の流動負債	86,887	153,444
固定負債	868,560	588,177
社 債	645,589	414,448
転換社債	79,986	79,986
長期借入金	112,813	71,154
繰延税金負債	6,643	2,614
退職給付引当金	17,301	14,170
その他の固定負債	6,226	5,802
特別法上の準備金	5,132	3,891
負債合計	9,995,830	8,807,049
少数株主持分	165,664	154,058
(資本の部)		
資本金	138,431	138,431
資本剰余金	117,939	117,786
利益剰余金	330,780	297,404
その他有価証券評価差額金	27,297	1,823
為替換算調整勘定	9,588	11,321
自己株式	689	2,406
資本合計	604,170	541,718
負債、少数株主持分及び資本合計	10,765,665	9,502,825

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成15年度 [15.4.1 ~ 16.3.31]	平成14年度 [14.4.1 ~ 15.3.31]
営業収益	453,813	387,658
受入手数料	194,162	144,282
トレーディング損益	120,195	93,932
営業投資有価証券売買損益	1,817	2,624
金融収益	103,223	114,707
その他の売上高	34,413	37,361
金融費用	77,331	90,594
売上原価	24,047	26,254
純営業収益	352,434	270,809
販売費・一般管理費	259,914	246,701
取引関係費	39,786	40,652
人件費	136,963	123,904
不動産関係費	32,518	33,348
事務費	14,898	14,708
減価償却費	21,530	21,067
租税公課	5,617	4,670
その他	8,599	8,349
営業利益	92,519	24,108
営業外収益	6,013	8,157
営業外費用	2,402	3,066
経常利益	96,130	29,200
特別利益	8,962	15,589
特別損失	28,167	32,945
税金等調整前当期純利益	76,925	11,844
法人税、住民税及び事業税	15,169	2,670
法人税等調整額	5,637	12,685
少数株主利益	13,480	2,810
当期純利益又は当期純損失	42,637	6,322

・ 営業投資有価証券売買損益
エヌ・アイ・エフ ベンチャーズが投資事業目的で取得した有価証券の売却損益及び評価減の合計額を計上しています。

・ 人件費
業績の回復にともない、賞与などが増加しています。

・ 特別損益の内訳(平成15年度)
・特別利益
固定資産売却益 10億63百万円
投資有価証券売却益 78億99百万円
・特別損失
投資有価証券評価減 26億91百万円
固定資産除売却損 12億22百万円
減損損失 127億96百万円
関係会社清算損 42億20百万円
店舗等統廃合移転費用 24億73百万円
証券取引責任準備金繰入 12億40百万円、等

・ 法人税等調整額
税効果会計の適用により、財務会計上の税引前利益と税金費用の額とを期間対応させるなど、税金費用の調整を行なう科目です。
平成15年度には、大和証券グループ本社が平成16年度より連結納税制度を適用することにより計上した171億52百万円(利益要因)が含まれています。

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	平成15年度 [15.4.1 ~ 16.3.31]	平成14年度 [14.4.1 ~ 15.3.31]
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	117,786	117,786
資本剰余金増加高	153	-
自己株式処分差益	153	-
資本剰余金減少高	-	-
資本剰余金期末残高	117,939	117,786
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	297,404	311,719
利益剰余金増加高	42,637	-
当期純利益	42,637	-
利益剰余金減少高	9,261	14,314
当期純損失	-	6,322
連結範囲拡大に伴う利益剰余金減少高	1,291	-
配当金	7,969	7,971
取締役賞与金	-	14
自己株式処分差損	-	6
利益剰余金期末残高	330,780	297,404

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
平成15年度 [15.4.1 ~ 16.3.31]	111,252	58,818	114,406	480,123
平成14年度 [14.4.1 ~ 15.3.31]	368,024	67,966	447,391	422,684

当社グループの平成15年度決算 (平成15年4月1日～平成16年3月31日)の概況をご説明いたします。

平成15年度の連結純営業収益は、受入手数料、トレーディング損益が増加したことなどにより、3,524億34百万円(対前年度比30.1%増)となりました。一方で、販売費・一般管理費が2,599億14百万円(同5.4%増)にとどまったことから、経常利益は961億30百万円(同229.2%増)、当期純利益は426億37百万円(黒字化)と大幅な増益となりました。

なお、平成15年度においては、固定資産の減損に係る会計基準を早期適用した結果、特別損失として減損損失を127億96百万円計上しました。また、当社が平成16年度より連結納税制度を適用することにもない、法人税等調整額171億52百万円(利益要因)を計上しています。

1 営業収益

(1)受入手数料

委託手数料

日経平均株価は4月にバブル崩壊後の最安値を付けましたが、その後急回復し、年度を通して活況を呈しました。東証1日平均株式売買代金は1兆1,724億円(同58.5%増)と、大幅に増加し1兆円を超えました。こうした背景により、委託手数料は796億45百万円(同70.0%増)と大きく増加しました。

引受け・売出し手数料

既公開企業の公募・売出しが大幅に増加、新規公開案件とともに大型主幹事案件を多数獲得したことにより、株券等引受け・売出し手数料が大幅に増加したことから、引受け・売出し手数料は460億93百万円(同64.9%増)と大きく増加しました。

募集・売出しの取扱手数料

株式投資信託の販売が好調に推移したことなどから、募集・売出しの取扱手数料は235億65百万円(同60.7%増)と大きく増加しました。

その他の受入手数料

投資信託の信託報酬率の低下などにより、アセット・マネジメント部門の手数料が209億32百万円(同21.1%減)と低調であったことから、その他の受入手数料は448億58百万円(同18.2%減)と減少しました。

(2)トレーディング損益

株式相場環境の好転を受け、株券等トレーディング損益は500億24百万円と大幅に増加しました。一方で、債券・為替等トレーディング損益は701億71百万円(同23.7%減)にとどまり、トレーディング損益合計では、1,201億95百万円(同28.0%増)と増収となりました。

(3)金融収支

海外子会社のレボ取引にともなう収益・費用がともに減少したことなどから、金融収益は1,032億23百万円(同10.0%減)、金融費用は773億31百万円(同14.6%減)とともに減少しました。この結果、金融収支は258億92百万円(同7.4%増)となりました。

2 販売費・一般管理費

業績の回復にともない、賞与を中心とする人件費が増加したものの、広告宣伝費を中心とする取引関係費や不動産関係費の減少により、販売費・一般管理費合計は2,599億14百万円(同5.4%増)となりました。

3 特別損益

特別利益では、投資有価証券売却益78億99百万円、固定資産売却益10億63百万円の合計89億62百万円を計上しました。また特別損失では、固定資産の減損に係る会計基準の早期適用により減損損失127億96百万円、関係会社清算損42億20百万円、店舗等統廃合移転費用24億73百万円等、合計281億67百万円を計上しました。

4 海外子会社の業績

平成15年度における、海外子会社の地域別経常利益は次のとおりです。

米州	欧州	アジア・オセアニア	海外計
12億70百万円	75億38百万円	19億77百万円	107億86百万円

大和証券グループ本社(単体)

(単位:百万円)

貸借対照表(平成16年3月31日現在)

流動資産	252,906	流動負債	193,219
固定資産	868,277	固定負債	369,805
		負債合計	563,025
		(資本金)	138,431
		資本合計	558,157
資産合計	1,121,183	負債・資本合計	1,121,183

利益処分計算書

	平成16年3月期		平成15年3月期	
当期末処理損失()		39,077		19,216
任意積立金取崩額		53,000		28,000
別途積立金取崩額	53,000		28,000	
計		13,922		8,783
利益処分額		13,423		7,969
配当金(注)	13,307		7,969	
取締役賞与金	116		-	
次期繰越利益		498		813

(注)平成15年3月期 現金配当 1株につき6円
平成16年3月期 現金配当 1株につき10円

損益計算書(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

営業収益	15,656
営業費用	14,297
うち販売費・一般管理費	8,155
営業利益	1,359
経常利益	1,855
当期純利益(損失)	39,891

大和証券

(単位:百万円)

貸借対照表(平成16年3月31日現在)

流動資産	321,683	流動負債	167,640
固定資産	58,193	固定負債	7,064
		特別法上の準備金	1,150
		負債合計	175,856
		(資本金)	100,000
		資本合計	204,020
資産合計	379,876	負債・資本合計	379,876

損益計算書(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

営業収益	171,605
純営業収益	171,216
販売費・一般管理費	136,136
営業利益	35,079
経常利益	35,219
当期純利益	19,272

大和証券エスエムビーシー

(単位:百万円)

貸借対照表(平成16年3月31日現在)

流動資産	7,446,596	流動負債	6,680,982
固定資産	129,212	固定負債	518,629
		特別法上の準備金	3,982
		負債合計	7,203,594
		(資本金)	205,600
		資本合計	372,213
資産合計	7,575,808	負債・資本合計	7,575,808

損益計算書(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

営業収益	161,681
純営業収益	152,216
販売費・一般管理費	111,332
営業利益	40,884
経常利益	41,873
当期純利益	23,227

主要国内グループ会社

(単位:百万円)

	大和証券 投資信託委託	大和総研	大和住銀 投信投資顧問	大和証券 ビジネスセンター	大和プロパティ	エヌ・アイ・エフ ベンチャーズ
営業収益	16,638	65,388	7,336	8,558	17,402	5,207
販売費・一般管理費	16,825	9,075	4,345	8,111	727	3,916
営業利益	186	5,667	568	447	5,904	492
経常利益	772	5,529	523	448	4,019	465
グループ持分 (平成16年3月31日現在)	100.0%	100.0%	44.0%	100.0%	93.5%	79.2%

出来事の末尾に()が付いている項目は、P12～13で詳細をご紹介します。

月	会社名	出来事
4月	大和証券	「ダイワの証券総合サービス ポート・ワン」の「ダイワのポイントプログラム」において、さまざまな特典と交換できる「ポイント交換サービス」を開始
	大和証券SMBC	太陽生命の新規公開(東証1部)において、国内単独・海外共同主幹事を務める
5月	大和証券グループ	福岡県と「システムLSIに係る関連企業の誘致支援等に関する協定」を締結 イタリアのジュゼッペ・ヴェルディ歌劇場「トリエステオペラ」の初来日公演に協賛
	グループ本社	Eコマースサイトの評価・ランキングを行うゴメス社の「2003年第1回証券IRサイトランキング」において、IRサイトが1位を獲得
	大和証券	「3つのサービス・パッケージ」をリニューアルした「2つのお取引コース」がスタート 「ダイワのオンライントレード」において、「目論見書の電子交付」を開始
	大和証券SMBC	シンガポール・ポストの新規公開(シンガポール証券取引所上場)において、国内販売の事務幹事を務める
6月	大和証券	6店舗目の営業所となる吉祥寺支店三鷹営業所がオープン 柏支店が移転オープン
	大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ	不動産ファンド運用会社 大和リアルエステートマネジメントを設立
	大和総研	中国の広東省中山市小欖鎮政府と、日本企業誘致のための総合的プランの提供で合意
7月	グループ本社	第2回普通社債(5年債 1,200億円)を発行 モーニングスター社による国内初の社会的責任投資(SRI)インデックス「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)」の構成銘柄に採用される
	大和証券	アリコ ジャパンのUSD建て個人年金保険「レグルス」の販売を開始
	大和証券SMBC	台湾の通信サービス・プロバイダー最大手のチョンホア・テレコムの新規公開(ニューヨーク証券取引上場)において、国内販売の事務幹事を務める
	大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ	世界銀行のカーボンファンド「地域開発炭素基金」に、世界の証券会社で唯一出資
	大和総研	外部の企業経営者向け研修における講義メニュー、コンサルティング・ビジネスの情報発信の拡充等を目的として、「経営戦略研究所」を設立
	エヌ・アイ・エフベンチャーズ	米国の有力バイオテクノロジー・ベンチャーキャピタル ソフィノバ・ベンチャーズ社との提携に合意
8月	大和証券	「ダイワのオンライントレード」において、新商品や新サービスを紹介する「ダイワのメールサービス」を開始
	大和住銀投信投資顧問	年金運用商品の「日本株式バリュー」「外国株式」が、「2003年第1回マーサーMPA(Japan)アワード」を国内株式バリュー部門、外国株式総合部門でそれぞれ受賞
9月	グループ本社	グループ本社株式の売出し(2,500万株)と自己株式の処分(上限250万株)を、取締役会において決議。10月受渡 「ダウジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス(DJSI World)」の構成銘柄として、5年連続で採用される
	大和証券	「ダイワのオンライントレード」において、「QUICK株価情報」の自動更新サービスならびに「ダイワの自動更新株価ボード」を開始

月	会社名	出来事
9月	大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ	三井住友銀行、三井住友海上火災保険とともに、再建可能と判断する企業向け債権等に投資する「デイスター・ファンド」、並びに、有力企業及び金融機関とともに、北海道地域内の再建可能と判断する中小企業に投資する「北海道企業再生ファンド」を設立
10月	大和証券グループ	京都の立命館高等学校で行なわれた実践型経済教育プログラム「スチューデントカンパニー・プログラム(SCP)」を支援し、社員を派遣()
	大和証券	首都圏・大阪・名古屋において展開していたエリア制に加え、地方におけるグループ制を導入し、エリア・マーケティング体制(母店制)を全国展開 大和証券が販売する初のSRI型投信「UBSグローバル株式40」の販売を開始
	大和証券SMBC	中国証券監督管理委員会に、QFII(適格外国機関投資家)の認可取得を申請、本年5月に取得
	大和総研	週刊『エコノミスト』の「第7回アナリスト・エコノミストランキング」の所属企業別ランキングで、初の1位に 日本情報処理開発協会より、個人情報の取り扱いに関する取り組みが適切であることが認定され、「プライバシーマーク」を取得
11月	大和証券グループ	大和証券SMBCが丸の内トラストタワーN館に本店を移転。1階に大和証券本店ステーションプラザ及びIRコーナーを新設()
	グループ本社	SRIの普及・啓発を目的とする国内初のNPO「社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)」に発起人として加盟
	大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ	三井住友フィナンシャルグループ、ゴールドマン・サックス証券、日本政策投資銀行と、企業再生合弁会社 SMFG企業再生債権回収を設立
	大和投資信託	「ダイワ株式・外債バランス(ユーロ債券型)」を設定。11月には同米ドル債券型、12月には同豪ドル債券型を設定
	エヌ・アイ・エフベンチャーズ	日本とイスラエル間のビジネス等への貢献に対し、'03年度の「日本・イスラエルビジネス交流貢献企業賞」を受賞
12月	グループ本社	『2003年3月期アニュアルレポート』が、日本経済新聞社主催の「Annual Report Awards 2003」で優秀賞を受賞
	大和証券	ホームページが、トライベック・ストラテジー社の「主要企業Webサイト・ユーザビリティ調査2003」で1位に
	大和証券SMBC	中国の生命保険会社最大手のチャイナ・ライフ・インシュアランスの新規公開(香港証券取引市場)において、国内販売の協同事務主幹事を務める
	大和投資信託	世界経済の潮流を捉え、変革・躍進が期待される企業に投資する「ダイワ大潮流(ジャパン・エクイティ・オープン)」を設定
平成16年 1月	グループ本社	ホームページに「CSR / コーポレート・ブランド経営」サイトがオープン()
	大和証券SMBCヨーロッパリミテッド	「EuroWeek's Deal of the Year Award」において各賞を受賞()
	大和住銀投信投資顧問	中国本土の企業に注目した「 ^{トクフェイ} チャイナ騰飛(チャイナ・エクイティ・オープン)」を設定し、国内の中国株式ファンドで過去最大に
2月	大和証券	全営業店に「ダイワ・カード」の店頭即時発行機を設置 ダイワの「株券ゆうパックサービス」を開始()
3月	大和証券グループ	当社グループの情報開示に対する基本的な考え方をまとめた「ディスクロージャー・ポリシー」を制定() 早稲田大学大学院ファイナンス研究科と包括提携
	大和総研	日経金融新聞の「第16回人気アナリスト調査」において、所属会社別得点ランキングで初の首位に

ディスクロージャー・ポリシーを制定

大和証券グループ

当社は、株主・投資家、地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーの方々の当社グループに対する理解を促進し、その適正な評価に資するために、当社グループの情報開示に対する基本的な考え方を定めた「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、3月1日に施行しました。

また、本ポリシーを具現化するために「ディスクロージャー規程」も同時に制定しました。グループ各社においても同様の規程を制定し、これにより、当社グループの情報開示方針の統一を図ります。

ディスクロージャー・ポリシー

当社は、株主・投資家、地域社会を始めとするあらゆるステークホルダーの当社に対する理解を促進し、その適正な評価のために、当グループに関する重要な情報（財務的・社会的・環境的側面の情報を含む。）の公正かつ適時・適切な開示を行います。

当社は、証券取引法、その他の法令及び当社の有価証券を上場している証券取引所の規則を遵守します。

当社は、内容的にも時間的にも公平な開示に努めます。

当社は、説明会、電話会議、インターネット、各種印刷

物を始めとするさまざまな情報伝達手段を活用し、より多くの投資家の皆様にわかりやすい開示を行うよう努めます。

当社は、情報開示にあたって、常に証券市場を担う立場にあることを意識し、他の株式上場企業の模範となるよう努めます。

これらの精神を実現するために、当社はディスクロージャー規程を制定し、ディスクロージャー委員会の設置や当グループの情報開示の方法等を定めています。

スチューデントカンパニー・プログラム(SCP)に対する教育支援

大和証券グループ

当社グループでは、京都・立命館高等学校が正課として導入した「スチューデントカンパニー・プログラム(SCP)」を支援しました。SCPとは、世界最大の経済教育団体 ジュニア・アチーブメントの教育プログラムで、生徒が資本金1万円で会社を設立し、生産・販売など16週間にわたる会社経営を行なうものです。当社グループの社員3名が同高等学校に赴き、社外コンサルタントとして、生徒へのアドバイスを行ないました。

SCPを受講した生徒は15名。会社組織を構築し、社名も「15名皆がひとつになる」というイメージを大事にしたい」という趣旨のもと、「ジューゴ株式会社」に決定しました。生徒は、株式を発行するなど本格的な会社経営を行ない、このプログラムの中心となる「会社経営」という初めての体験を通じて、社会の仕組みや経済の働きについて理解し、意思決定力を育みました。

「青少年経済教育への支援について」 <http://www.daiwa.jp/branding/action/ja.html>



「CSR / コーポレート・ブランド経営」サイトがオープン

グループ本社

ホームページに「CSR / コーポレート・ブランド経営」サイトをオープンしました。本サイトは「CSRとブランド経営」をキーワードに「大和証券グループができること」という観点から、SRI(社会的責任投資)など本業における取り組み、社会貢献活動、環境コミュニケーションなどのコンテンツを掲載。今後、本サイトを通じて、当社グループの社会・環境活動についての情報提供を拡充するとともに、コミュニケーションを深めていきます。



「CSR / コーポレート・ブランド経営」サイト <http://www.daiwa.jp/branding/>

大和証券グループの新拠点が誕生 大和証券グループ

11月1日、大和証券SMBCは東京駅日本橋口に新しく建設された「丸の内トラストタワーN館」に、本店を移転しました。大和証券SMBCは、数カ所に分散していたトレーディング関連部門以外の部署をここに集約し、業務の効率化を図ります。また、10月27日には、同ビル1階に大和証券の本店ステーションプラザ及びIRコーナーを開設しました。



お客さまに対するさまざまな新サービスを提供

大和証券

大和証券では、お客さまの利便性を高め、満足度のさらなる向上を目的として、さまざまな新サービスを提供しています。

ダイワの「株券ゆうパックサービス」の開始

2月23日、お客さまの指定する日時・場所へ、大和証券へ入庫していただく株券を郵便局員が無料で集荷訪問する、ダイワの「株券ゆうパックサービス」を開始しました。郵送中の保険も付いて安心で、近くに店舗がない、店頭に行く時間が取れないなどといったお客さまに、とても便利なサービスです。

「ダイワ・カード」の店頭即時発行が可能に

2月19日より、全営業店で「ダイワ・カード」の即時発行が可能になりました。これにより、お客さまご自身による入出金やオンライントレードの即日利用ができるようになりました。

三井住友銀行とATMで提携

本年4月1日より、三井住友銀行本支店・出張所、及びコンビニエンスストアのam/pmに設置されているATMにて「ダイワ・カード」による大和証券のお客さまの口座への入金取引を開始しました。

「EuroWeek's Deal of the Year Award」において各賞を受賞

大和証券SMBC

大和証券SMBCヨーロッパリミテッドは、1月に発表された「EuroWeek's Deal of the Year Award」において以下の各賞を受賞しました。

欧州市場における評価は着実に高まっています。

- Best Lead Manager of Yen Bonds
- Best Lead Manager of Bonds for Japanese Borrowers < 2年連続受賞 >
- Best Japanese Distribution
- Yen Deals of the Year(ユーロ円建てHBOS劣後債、ポーランド共和国サムライ債)
- Uridashi of the Year(豪ドル建てニュージーランド売出債)





環境保護活動

各地域におけるクリーンアップ活動、巨樹・巨木保護活動の一環として、大和証券の営業店における書き損じ・未使用はぎの回収などを行なっています。

- 6月・新入社員を中心とするグループ社員238名が、昨年に引き続き、千葉県の大九里浜海岸でクリーンアップ活動を実施しました。約2kmの海岸線を歩きながら、可燃ごみ300kg、不燃ごみ100kgを収集しました。
- 8月・環境保護をテーマにしたミュージカルショー『地球のいのち～森と水』に、児童養護施設や母子生活支援施設の子どもたち89名を招待しました。
- ・「全国同時クリーンアップ・プロジェクト」(ボランティア文化フェスティバル実行委員会主催)に大阪地区の社員が参加しました。
- 9月・兵庫県の芦屋、宝塚、西宮市が主催するクリーンハイキング「六甲山を美しくする会」に大和証券大阪北エリア5カ店の社員とその家族ら107名が参加しました。



- 10月・大和証券静岡支店の社員が、静岡市内の清掃活動を行ないました。(写真上)
- 平成16年
3月・自然とのふれあいを通じて森林や林業に対する理解を深める体験教室を開催しました。



社員のボランティア意識の向上

新入社員や支店長を対象とする研修で福祉体験等を実施したほか、継続的に手話教室を開催しています。

- 4月・新入社員研修において、手話講座、アイマスク体験、特別養護老人ホームでの介護体験などの社会貢献カリキュラムを実施しました。
- 7月・大和証券の支店長など34名を対象に、高齢者や障害者の疑似体験を行なう、福祉体験講座を実施しました。
- 7・9月・聴覚障害を理解する講習会に、グループ社員とその家族らが参加しました。
- 11月・大和証券川崎支店において、ボランティアのガイダンスを行なうセミナーを開催しました。



- 年 2 回
- ・東京、大阪、名古屋の3地区で、6カ月を1クールとした手話教室を開催しています。(写真上)



国際交流

「大和日英基金」による日英間の教育・文化交流の支援を始め、さまざまな国際交流活動を行なっています。

- 9月・日仏協会、HEC経営大学院主催の「日仏学生フォーラム」に対し、研修ガイダンス宿舎として当社グループの研修センターを提供しました。

- 12月・ボランティア入門講座「はじめのいっぽ」の国際協力分野に、グループ社員が参加しました。
- 平成16年
2月・大和スコーラーとのクッキングセミナーを開催しました。



ボランティア活動・地域活動

「社会貢献室」が中心となって、積極的にボランティア活動・地域活動を推進しています。社員の参加が増え、活動の幅が広がっています。

- 4月・大和証券金沢支店の社員が、市内のケアセンターで車椅子の清掃・整備を行ないました。
- 5月・大和証券山形、津、金沢、岡山支店の社員が、あしなが募金のPRや地球規模での遺児支援ができるボランティアに参加しました。
・一般ランナーと身体・知的障害者がともに参加できる「東京シティロードレース2003」で、受付案内・給水などのボランティア活動を実施しました。
- 6月・東京都町田市の養護学校で、大和証券の新社員が重度・重複障害児と音楽の時間を通じたふれあいを体験しました。
- 8月・東京都港区「麻布十番納涼まつり」にグループ社員とその家族ら約80名が参加し、清掃、チャリティー募金のほか、英語でのアナウンス、プラスバンドパレードの誘導などを担当しました。
- 10月・障害者の方々とふれあうレクリエーション「ミッキーマウスに愛(あい)に行くツアー」に参加しました。



- 11月・スポーツを通じて知的障害者の社会参加を応援する競技会「第1回ウォーク&ランフェスティバル」の準備などに協力しました。
(写真左下)
- 12月・福祉施設の方を講師に迎えて開催されたお菓子作りの体験教室に参加しました。
- 平成16年
1・2月・大和証券主催の「ダイワの新春講演会」(東京・大阪・名古屋)で手話通訳を行ないました。東京・名古屋では、グループ社員が手話通訳として参加しました。
- 3月・聴導犬の役割や聴覚障害者への理解を深めるため、大阪で「聴導犬セミナー」を他社と共催しました。(写真下)



随時

- ・中学校及び高等学校で実施される「職場訪問」を支援し、当社グループへの訪問に対応しています。

その他、以下のボランティア活動を行ないました

- イラン地震の救援活動として、日本赤十字社に145万円を寄付
- ペットボトルキャップのリサイクル
- タイ・ラオスの子どもたちに、絵本・鉛筆をプレゼント
- テニスラケット、タオルの寄贈
- 使用済み切手、プリペイドカードなどの寄付
- 「大和VISAカード」の付与ポイントを利用したボランティア活動助成

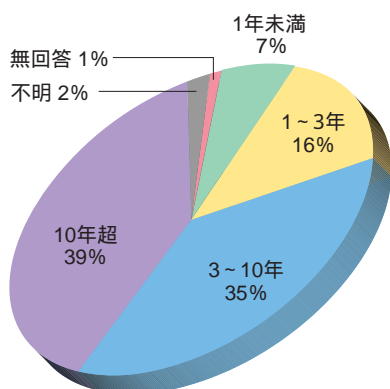
アンケート集計結果

昨年11月に、実施させていただきました株主のみなさまへのアンケートにつきまして、以下のとおり集計結果をご報告させていただきます。返信数は約9,500通にのぼり、昨年9月末の株主さま(101,027名)の約9%の方からご返信いただきました。みなさまのご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

当社株式について

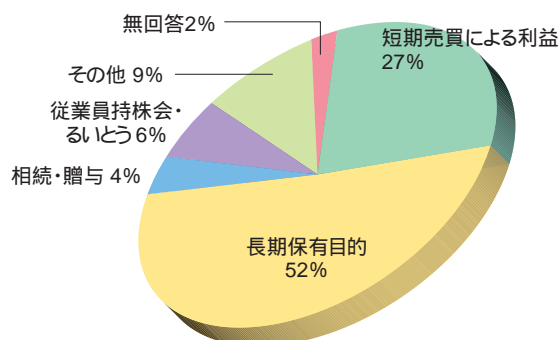
(1) 当社の株主になられてからの期間

全体の39%(前年38%)が10年超の保有となっています。一方、1年未満は全体の7%(同11%)と低下しており、比較的長期の保有となっていることがわかります。



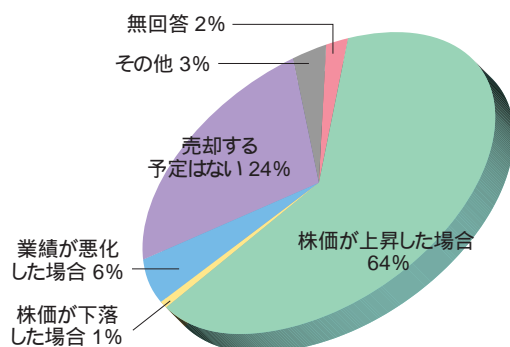
(2) 当社株式を取得した理由・目的は?

長期保有目的が全体の52%(前年51%)を占める一方で、短期売買による利益が目的とのご回答は27%(同28%)となりました。長期保有のメリットを享受していただけるよう、引き続き努力してまいります。



(3) 当社株式の売却を考えるタイミング

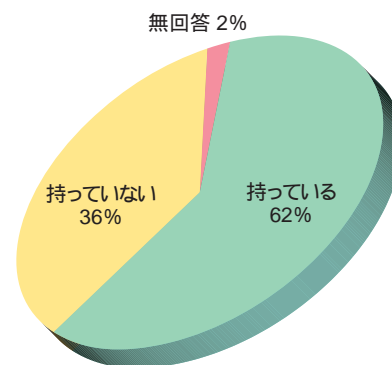
当社株式の売却については、64%が「株価が上昇した場合」とする一方、24%が「売却する予定はない」となりました。また、「業績が悪化した場合」は6%、「株価が下落した場合」は1%となっています。



大和証券での口座保有状況

大和証券に口座をお持ちですか?

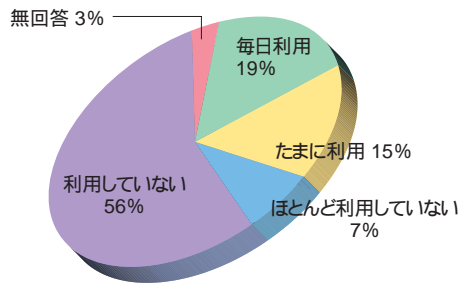
全体の62%の方が大和証券に口座を開設してくださっています。昨年より新しい株主優待制度として、大和証券の「ダイワの証券総合サービスポート・ワン」にご加入いただいている単元株以上保有の株主様には「ダイワのポイントプログラム」の交換ポイントを贈呈しています(お申込みハガキの返送が必要です)。



インターネットの利用について

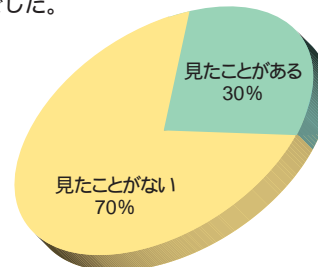
(1) 普段のインターネットの利用

インターネットを利用しているのご回答は、「毎日」と「たまに」を合わせて34%、「ほとんど利用していない」「利用していない」の合計は63%でした。



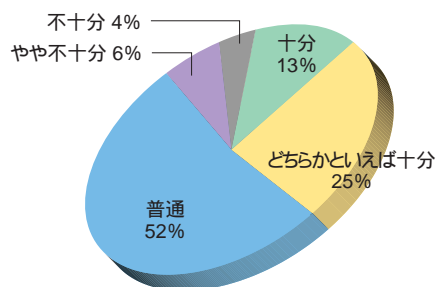
(2) 当社IRサイト

(1)においてインターネットを「利用している」とご回答いただいた方のうち、当社のIRサイトを見たことがある方は30%でした。



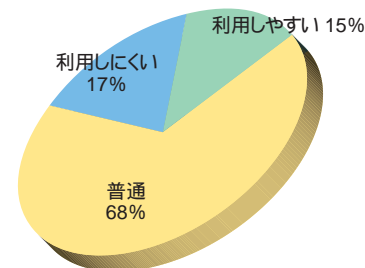
(3) 当社IRサイトの情報量

(2)において当社IRサイトを「見たことがある」とご回答いただいた方のうち、情報量が「十分」「どちらかといえば十分」の合計は38%、「普通」は52%、「やや不十分」「不十分」の合計は10%でした。



(4) 当社IRサイトの利用しやすさ

(2)において当社IRサイトを「見たことがある」とご回答いただいた方のうち、無回答を除いて、「利用しやすい」は15%、「普通」は68%、「利用しにくい」は17%でした。



<お知らせ>

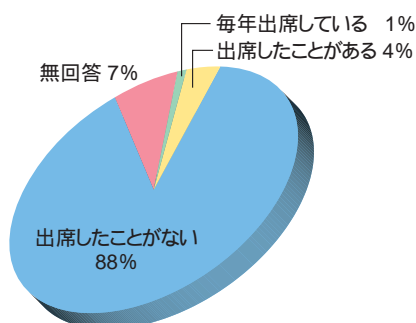
本年6月23日開催の株主総会終了後、当社ホームページおよびIRサイトをリニューアルしました。これまでより操作性、視認性を高め、みなさまが必要とされる情報や利便性の高い情報へのアクセスを容易にする構成となっています。

株主総会について

(1) 株主総会への出席

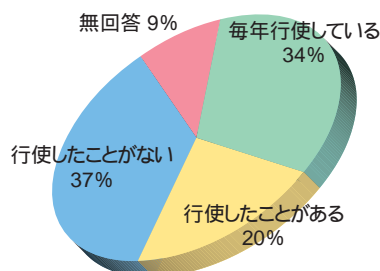
88%の方が「出席したことがない」とのご回答でした。当社では株主総会をより多くの株主さまにご覧いただきたいの考えから、一昨年より大阪と名古屋に特設会場を設けて、株主総会の衛星同時中継を行なっています()。また、本年の総会は、より多くの株主さまにご出席いただけるよう、開催時期を昨年よりも早めました。

() 衛星同時中継会場では議決権行使はできません。



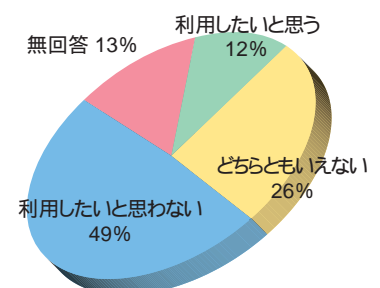
(2) 議決権の行使

議決権を行使したことがあるとのご回答は全体の54%でした。今後も議決権を行使いただけるよう、よろしく願いいたします。



(3) インターネットによる議決権行使

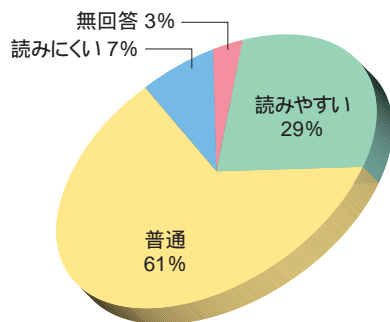
全体の12%がインターネットによる議決権行使を「利用したい」とご回答されています。当社では、他社に先駆けて、2002年6月開催の定時株主総会よりインターネットによる議決権行使を導入しています。ぜひご利用ください。



アンケート集計結果

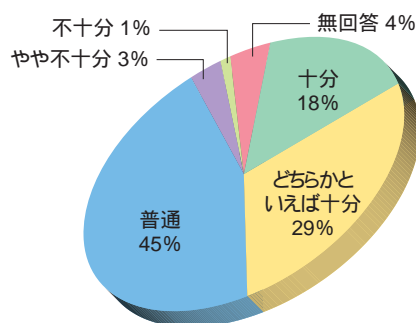
当社の印刷物について

(1) 事業報告書(中間事業報告書)の読みやすさ
事業報告書(中間事業報告書)については、「読みやすい」が29%、「普通」が61%、「読みにくい」が7%となりました。



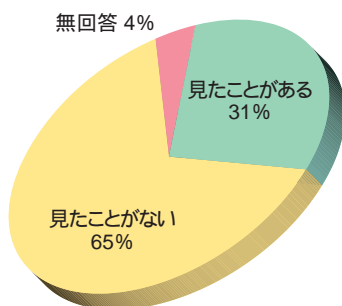
当社の事業報告書は、A4サイズで作成しています。大きな文字と多くの図表の使用を可能とすることで、より読みやすい事業報告書とすることを目的としています。今回

(2) 事業報告書(中間事業報告書)の情報量
事業報告書の情報量については、「十分」「どちらかといえば十分」の合計が47%、「普通」が45%、「やや不十分」「不十分」の合計が4%となりました。



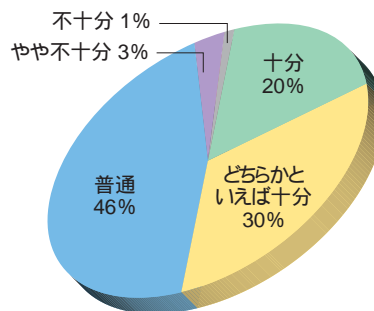
のアンケート結果では高いご評価をいただき、深く感謝いたします。今後ともより多くの株主さまにご満足いただける事業報告書作りを目指してまいります。

(3) アニュアルレポート(年次報告書)について
当社のアニュアルレポートを「見たことがある」方は31%、「見たことがない」方は65%でした。



当社は、投資家のみなさまの当社グループに対するご理解を深めることを目的として、毎年、日本語版と英語版のアニュアルレポートを作成しています。今回のアンケート結果では、ご覧になられた方からは高い評価をいただいています。また、昨年のアニュアルレポートについては、日本経済新

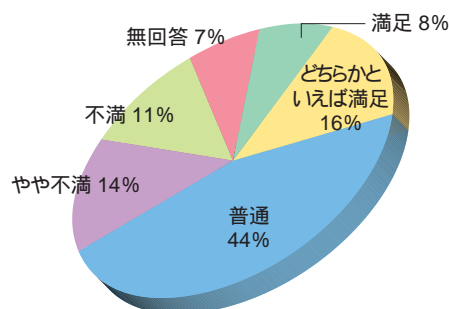
(4) 当社アニュアルレポートの情報量
(3)において当社のアニュアルレポートを「見たことがある」とご回答いただいた方のうち、情報量が「十分」「どちらかといえば十分」の合計は50%、「普通」は46%、「やや不十分」「不十分」の合計は4%でした。



聞のコンテストで優秀賞を獲得しています。昨年以上に充実したものとなることを目指し、本年も作成中です。送付をご希望される株主さまは本報告書裏表紙に記載の「お問い合わせ先」までご連絡ください。完成後に送付させていただきます。

株主優待について

当社の株主優待の内容には満足されていますか?
「満足」「どちらかといえば満足」の合計が24%、「普通」が44%、「やや不満」「不満」の合計が25%でした。本年もほぼ同じ優待内容となっていますが、昨年よりもお申込みが容易となるように、お申込みハガキの改善を行なっています。みなさまからのお申込みをお待ちしております。



大和証券グループの新パートナー 星野仙一氏

平成16年度より、星野仙一氏が当社グループのパートナーに決定しました。イメージキャラクターとして広告・宣伝活動に登場していただくのはもちろん、当グループに対するさまざまな意見をぶつけていただくパートナーです。

新CMの紹介

大和証券「ちょっといい関係」編

星野氏が出演するCM第1弾は、「2つのお取引コース」の「ダイワ・ダイレクト」コースを紹介する内容です。ゆったりと、別荘でくつろぐ星野氏が、オンライン取引を行なっているという設定です。「知りたいとき」「確かめたいとき」「わからないとき」……そんな時に、フルサポートで安心してお取引いただける「ダイワ・ダイレクト」コース。その強みである、幅広い知識を備えたオペレーターのTSR(telephone service representative)によるサポート力を、「話せる」というキーワードと、星野氏の豊かな表情を合わせて印象的に仕上げました。また、星野氏の静止画像やモノクロの映像を入れるなどの演出手法を取り入れ、CMの印象度をより高める工夫を施しています。

なお、BGMはオリジナルソングの『Kissing The Sky』です。

30・15秒、4/13～放送



星野氏：もしもし



N A：星野さんが選んだのは、



星野氏：話せる



N A：話せるオンライントレード
ダイワ・ダイレクト



TSR：はい、大和証券です

新聞広告の紹介

企業広告 3月23日付日本経済新聞掲載



「大和証券グループは、星野仙一さんとはじめています。」というタイトルで、当社グループのパートナーになった星野氏を紹介しています。星野氏の写真を全面に出し、読者の方の目を引く広告に仕上げました。

ダイワ・ダイレクト 3月29日付日本経済新聞、
4月13日付朝日新聞掲載



テレビCMと同様のコンセプトで、お客さまの代表である星野氏が、「話せる」オンライントレードの「ダイワ・ダイレクト」を選んだという設定の広告です。「ダイワ・ダイレクト」コースのポイントを紹介しています。

プロフィール：星野仙一 <small>ほしのせんいち</small>	
生年月日	昭和22年1月22日（57歳）
出身地	岡山県倉敷市
身長	180cm
略歴	
昭和43年	明治大学政治経済学部卒業後、中日ドラゴンズにドラフト1位で入団
49年	沢村賞・最多セーブ賞受賞（20年ぶりに中日が優勝）
50年	最優秀勝率投手
57年	中日ドラゴンズ3度目の優勝とともに引退。引退後 野球評論家に
61年	中日ドラゴンズ監督として契約
63年	セ・リーグ優勝
平成3年	中日ドラゴンズ退団
7年	中日ドラゴンズ監督として契約
11年	セ・リーグ優勝
13年	中日ドラゴンズ退団
14年	阪神タイガース監督として契約
15年	セ・リーグ優勝。日本シリーズ終了後監督を辞任し、シニア・ディレクターに就任

株式、株価の状況

株式数及び株主数

(平成16年3月31日現在)

所有者区分	株主数(名)	株主数比率	株式数(千株)	株式数比率(平成15年3月末)
個人	111,801	97.5%	275,580	20.7%(18.0%)
金融機関	326	0.3%	529,897	39.8%(45.2%)
国内法人	1,844	1.6%	82,741	6.2%(6.5%)
外国人	611	0.5%	414,858	31.2%(29.1%)
その他	105	0.1%	28,657	2.2%(1.2%)
合計	114,687	100%	1,331,735	100%

(注1)株式数は千株未満を切捨てています。

(注2)「その他」には、政府・地方公共団体、証券会社、(株)証券保管振替機構名義の株式、自己名義株式が含まれます。

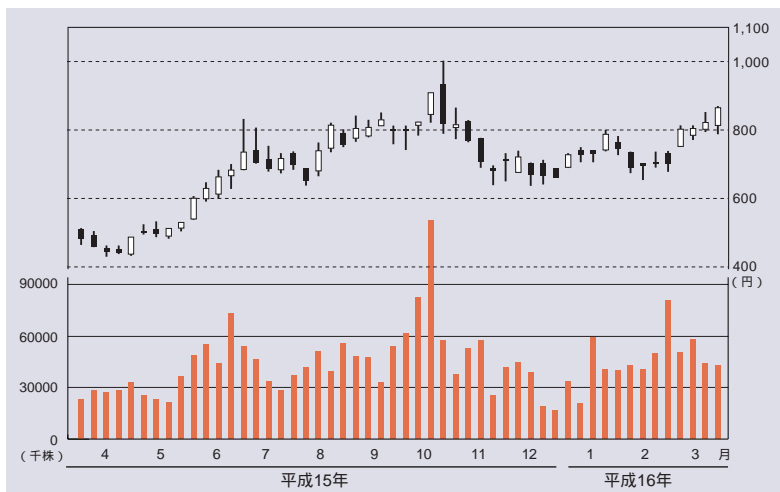
大株主(上位10名)

(平成16年3月31日現在)

株主名	持株数(持株比率)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	113,804千株(8.55%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	61,243千株(4.60%)
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	37,746千株(2.83%)
株式会社三井住友銀行	30,328千株(2.28%)
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	29,010千株(2.18%)
太陽生命保険株式会社	28,140千株(2.11%)
メロン バンク トリーティー クライアンツ オムニバス	25,425千株(1.91%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口	24,888千株(1.87%)
日本生命保険相互会社	23,185千株(1.74%)
ザ チェース マンハッタン バンク 385036	22,487千株(1.69%)

(注)株式数は千株未満を切捨てています。

株価及び出来高の推移



平成15年4月1日
～平成16年3月31日
(東京証券取引所)

始値	高値	安値	終値
490円	995円	432円	850円

一日平均出来高
9,248千株

株券を喪失した場合には

お手持ちの株券を盗難、紛失、焼失などにより喪失された場合は、平成15年4月施行の改正商法により創設された株券失効制度に基づき、株券喪失登録申請を行ない、登録日翌日より1年の期間経過をもって株券を失効させるこ

とにより株券の再発行が可能となります。
詳しくは、下記の住友信託銀行の電話照会先(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

住所変更のお手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きが必要となります。お手続きをお忘れになると、株主総会招集ご通知や配当金などをお届けできなくなります。ご注意ください。

手続方法

大和証券本支店または下記の住友信託銀行の電話照会先(フリーダイヤル)までご連絡ください。手続きに必要な書類をご送付いたします。

*保管振替制度をご利用の方は、お取引先の証券会社等へのお届出となります。

単元未満株式の買増しについて

当社では、単元未満株式に不足分を買増して単元株式(1,000株)におまとめいただけるよう、単元未満株式の買増制度を採用しております。具体的なお手続きに関す

るご照会は、下記の住友信託銀行の電話照会先(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

*保管振替制度をご利用の方は、お取引先の証券会社等にお問い合わせください。

単元未満株式の買取について

お手持の単元未満株式については、株券発行の有無にかかわらず、当社(名義書換代理人)に買取請求をすることができます。買取請求はいつでも可能です。

ご請求は、住友信託銀行の本店および全国各支店または証券会社の窓口にて受け付けています。

*保管振替機構への預託単元未満株式については、お取引先の証券会社等を経由してのお手続となります。

株式についてのご案内

決算日

3月31日(年1回)

配当金支払株主確定日

利益配当金 3月31日

中間配当金 9月30日

*平成16年度より中間配当金制度を導入しました。

定時株主総会

6月下旬

名義書換代理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183 8701

東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

住友信託銀行株式会社

住所変更等用紙のご請求

0120-175-417 (フリーダイヤル)

その他のご照会

0120-176-417 (フリーダイヤル)

インターネットホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/>

[STA/retail/service/daiko/index.html](http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html)

同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

公告掲載新聞

日本経済新聞

*当社は、平成14年3月期より、商法特例法16条3項に基づき、貸借対照表及び損益計算書を電磁的方法により開示しています。開示場所のURLは以下のとおりです。

URL : <http://www.daiwa.co.jp/ir/kessan/>

商号	株式会社大和証券グループ本社 英文：Daiwa Securities Group Inc.
証券コード	8601
所在地	〒100-8101 東京都千代田区大手町二丁目6番4号
電話	(03)3243-2100(代)
創業日	明治35年5月1日
設立日	昭和18年12月27日
代表者	代表執行役社長 兼 CEO 鈴木 茂晴
資本金	1,384億円(平成16年3月31日現在)
事業内容	証券関連業務及びその遂行を支援する業務を営む国内及び海外の子会社、関連会社の株式を所有することによる当該会社の支配・管理
ホームページ	http://www.daiwa.jp/
大和証券グループIRサイト	http://www.daiwa.jp/ir/

取締役	執行役
取締役会長 原 良也	代表執行役社長 兼 CEO 鈴木 茂晴
取締役副会長 清田 瞭	代表執行役副社長 兼 COO 斎藤 辰栄
取締役 鈴木 茂晴	執行役副社長 前 哲夫
取締役 斎藤 辰栄	執行役副社長 野田 賢治郎
取締役 前 哲夫	執行役副社長 樋口 三千人
取締役 樋口 三千人	執行役副社長 秦野 輝男
取締役 脇水 純一郎	執行役副社長 兼 CIO 武本 嘉之
取締役 日比野 隆司	専務執行役 長谷川 明
取締役 林部 健治	専務執行役 中村 康男
社外取締役 川上 哲郎 (住友電気工業株式会社 相談役)	専務執行役 大村 信明
社外取締役 安田 隆二 (一橋大学大学院 教授)	専務執行役 井上 洋一郎
社外取締役 北島 敬介 (弁護士)	常務執行役 兼 CFO 脇水 純一郎
社外取締役 宇野 紘一 (公認会計士)	常務執行役 日比野 隆司
	執行役 森 郁夫
	執行役 原 良也
	執行役 清田 瞭

(注)CEO.....最高経営責任者 COO.....最高執行責任者
CIO.....情報技術担当 CFO.....最高財務責任者

主要国内グループ会社

大和証券株式会社	本社 〒100-8101 東京都千代田区大手町二丁目6番4号 電話(03)3243-2111 代表者 鈴木 茂晴
大和証券エスエムピーシー株式会社	本社 〒100-8289 東京都千代田区丸の内一丁目8番1号丸の内トラストタワーN館 電話(03)5533-8000 大阪支店(06)6454-7000 名古屋支店(052)963-7200 代表者 斎藤 辰栄
大和証券投資信託委託株式会社	本社 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町二丁目10番5号 電話(03)5695-2111 代表者 秦野 輝男
株式会社大和総研	本社 〒135-8460 東京都江東区冬木15番6号 電話(03)5620-5100 代表者 武本 嘉之
大和住銀投信投資顧問株式会社	本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目7番9号 電話(03)3243-2915 代表者 小森 脩一
株式会社大和証券ビジネスセンター	本社 〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目3番2号 電話(03)5633-6100 代表者 福田 憲一
大和プロパティ株式会社	本社 〒103-8219 東京都中央区日本橋茅場町一丁目1番9号 電話(03)3665-5501 代表者 盛本 正英
エヌ・アイ・エフ ベンチャーズ株式会社	本社 〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目2番1号 電話(03)5201-1515 代表者 山村 信一

コールセンター 0120-010101 (フリーダイヤル) インターネット <http://www.daiwa.co.jp/>

本店(03)3243-2626 本店ステーションプラザ(03)3243-2626

北海道・東北地区

札幌支店	(011)214-6111
釧路支店	(0154)23-0161
青森支店	(017)777-2111
盛岡支店	(019)652-1171
仙台支店	(022)221-5111
秋田支店	(018)831-2811
山形支店	(023)622-8151
福島支店	(024)522-3111
郡山支店	(024)932-3111
いわき支店	(0246)23-0111

関東地区(東京除く)

水戸支店	(029)226-9111
宇都宮支店	(028)621-3531
高崎支店	(027)327-7111
大宮支店	(048)642-3881
大宮支店西口ステーションプラザ	(048)648-5500
越谷営業所	(048)966-5555
浦和支店	(048)834-6111
川口支店	(048)225-3611
新座志木営業所	(048)487-5370
所沢支店	(04)2922-8111
所沢支店ステーションプラザ	(04)2922-8111
千葉支店	(043)227-8181
船橋支店	(047)424-2111
松戸支店	(047)366-5111
うすい支店	(043)462-1009
柏支店	(04)7166-2701
横浜支店	(045)671-6700
横浜駅西口支店	(045)311-1271
戸塚支店	(045)864-1715
川崎支店	(044)244-2121
溝の口営業所	(044)811-8011
藤沢支店	(0466)23-8111
鎌倉支店	(0467)23-1616
厚木支店	(046)224-8111
茅ヶ崎支店	(0467)58-6111
横須賀支店	(046)821-1800

東京地区

日比谷支店	(03)3508-8111
銀座支店	(03)5250-8585
新宿支店	(03)3352-5141
新宿セブンイレブン支店	(03)3345-1661
上野支店	(03)3832-0191

亀戸支店	(03)3681-3181
五反田支店	(03)3493-1211
自由が丘支店	(03)3717-0141
蒲田支店	(03)3732-9171
大森支店	(03)5471-3311
成城支店	(03)3415-5211
渋谷支店	(03)3463-9211
中野支店	(03)5385-1311
高円寺営業所	(03)3310-2121
池袋支店	(03)3982-2141
池袋西口支店	(03)3980-1005
赤羽支店	(03)3903-0311
練馬支店	(03)3992-0131
千住支店	(03)3879-6111
吉祥寺支店	(0422)22-9311
三鷹営業所	(0422)41-0777
国立支店	(042)571-0211
立川支店	(042)526-1711
八王子支店	(0426)44-2211
多摩支店	(042)375-5511
町田支店	(042)722-2131

中部・北陸地区

新潟支店	(025)223-4101
長岡支店	(0258)37-9001
富山支店	(076)424-2411
高岡支店	(0766)21-3500
金沢支店	(076)262-4211
福井支店	(0776)22-3311
甲府支店	(055)222-0121
長野支店	(026)227-6501
松本支店	(0263)35-0131
岐阜支店	(058)265-2171
静岡支店	(054)254-3151
浜松支店	(053)454-1411
沼津支店	(055)962-3590
名古屋支店	(052)963-7111
名古屋駅前支店	(052)571-3111
豊橋支店	(0532)55-0011
岡崎支店	(0564)24-6811
一宮支店	(0586)71-6311
津支店	(059)226-7111

近畿地区

彦根支店	(0749)23-2111
京都支店	(075)251-2111

大阪支店	(06)6454-7778
梅田支店	(06)6373-3311
難波支店	(06)6632-5151
京橋支店	(06)6354-1201
阿倍野支店	(06)6624-0333
岸和田支店	(0724)23-3501
豊中支店	(06)6854-1131
川西能勢口駅営業所	(072)758-7201
茨木支店	(072)632-0651
神戸支店	(078)392-7911
姫路支店	(0792)23-2881
尼崎支店	(06)6411-1481
明石支店	(078)917-0001
西宮支店	(0798)66-3500
奈良支店	(0742)23-1271
和歌山支店	(073)431-1131

中国地区

鳥取支店	(0857)29-1511
松江支店	(0852)27-7151
岡山支店	(086)225-1111
広島支店	(082)228-5211
福山支店	(084)931-3333
下関支店	(0832)31-5151
徳山支店	(0834)21-5601

四国地区

徳島支店	(088)623-0131
高松支店	(087)822-2222
松山支店	(089)941-7101
新居浜支店	(0897)33-5800
高知支店	(088)823-0323

九州・沖縄地区

福岡支店	(092)713-4007
北九州支店	(093)531-1141
久留米支店	(0942)33-2131
佐賀支店	(0952)24-6121
長崎支店	(095)823-0181
熊本支店	(096)353-2551
大分支店	(097)537-8111
宮崎支店	(0985)29-5211
鹿児島支店	(099)223-5141
那覇支店	(098)861-5200

お客様相談センター

03-3665-5111

受付時間 午前9時から午後5時まで(土・日・祝日を除く)

CS推進室内に開設している「お客様相談センター」では、お客さまのご意見、ご要望、苦情などを、専用電話にてお伺いしています。お客さまからお寄せいただいた「声」に真摯に耳を傾け、その声を企業活動に活かし、サービスやお客さま満足度の向上に役立てていき、これにより「お客さまから選ばれる証券会社」を目指します。

大和証券グループ本社の株主優待制度

お申込みいただいたすべての株主さまに

壁掛け用カレンダーを贈呈

さらに

1,000株～4,999株保有の株主さまに

「ダイワのポイントプログラム」の交換ポイント1,000ポイントを贈呈
国内株式口座管理料無料サービス、セレクト商品との交換など

5,000株以上保有の株主さまに

「ダイワのポイントプログラム」の交換ポイント3,000ポイントを贈呈
国内株式口座管理料、外国証券口座管理料及び株式累積投資口座
管理料無料サービス、セレクト商品との交換など

交換ポイントをご希望されない株主さまには、「株主優待カタログ」または「税金読本」(5,000株以上保有の株主さまには両方)をご希望に応じて贈呈します。

いずれもお申込みが必要となります。本報告書と同封のお申込みハガキに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。

* ポイントの贈呈には、大和証券での口座開設及び「ダイワの証券総合サービス ポート・ワン」へのお申込みが必要となります。また、国内株式口座管理料無料サービスをご利用いただくには、大和証券において保護預りのすべての株券を(株)証券保管振替機構で保管することをご承諾いただくことが必要となります。

* ポイントの付与は11月末まで、カレンダーの発送は12月上旬を予定しております。

株主優待に関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
「ダイワの証券総合サービス」及び「ダイワのポイントプログラム」についてのお問い合わせは、大和証券の各店舗または

コールセンター(フリーダイヤル 0120-010101)までご連絡ください。

(平日 8:00～22:00 / 土、日、祝日 9:00～17:00)

お問い合わせ先

広報IR部 TEL:(03)3243-3841

FAX:(03)3242-0955

eメールアドレス: ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

株式会社 大和証券グループ本社

